

# つながる

Tsu-na-ga-ru



## SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」  
**LINKED**  
*plus+*  
病院を  
知ろう

### 将来の生活を考えて ベストな治療法を選ぶ。

心臓病の治療特集

## CONTENTS

- 1 検査を学ぼう
- 2 チーム医療を知ろう
- 3 HOSPITAL NEWS

## 院長メッセージ

「人は血管とともに老いる」ともいわれるように、加齢とともに血管は老化し、動脈硬化が進行して心臓病になりやすくなります。今回の特集では心臓病の治療をテーマに、患者さんの年齢や退院後の生活を考えてベストな治療法を提案する当院の医療体制についてご紹介します。ぜひご一読いただき、ご家族の健康管理にお役立てください。

SPECIAL REPORT

# 将来の生活を考えて ベストな治療法を選ぶ。

## 心臓病の治療特集

循環器内科と心臓血管外科が緊密に連携し、  
患者さんにとって最適な治療法を提案する。

CHAPTER 01  
**合同カンファレンスで  
心臓病の治療方針を検討。**

心筋梗塞、狭心症、不整脈、心臓弁膜症など、多岐にわたる心臓病の治療法について、岡崎市民病院では循環器内科と心臓血管外科の合同カンファレンスを開き、幅広い角度から検討している。

ある日の合同カンファレンスをのぞいてみた。検討されていたのは、狭心症の患者、70歳代。狭心症は心臓を取り巻く冠動脈が狭くなり血流が不足する病気である。「狭窄の場所が複数ありますね。経皮的冠動脈インターベンション（カテーテルを血管に挿入し、狭窄した部位を広げる治療）は難しいかもしれませんが」「そうなれば、冠動脈バイパス術（詰まった冠動脈の先に迂回路を作る手術）になりますが、体力的に手術に耐えられるかどうか」「持病としては、糖尿病がありますね」「ご本人やご家族の希望はどうでしょうか」。医師たちは画像データやカルテ情報を見ながら、慎重に議論を重ね、最終的に冠動脈バイパス手術を提案することで合意した。この議論を振り返り、副院長の田中寿和医師（循環器内科）は次のように説明する。「狭心症の主な治療法には、冠動脈インターベンションと冠動脈バイパス術があります。冠動脈インターベンションは体への負担は少ないですが、再狭窄のリスクが残る。一方、バイパス手術は完全に血行再建できますが、体への負担

が大きい。それぞれの特徴と、患者さんの年齢や症状、全身の病気を見極めながら、みんなで活発な意見交換を行っています」。

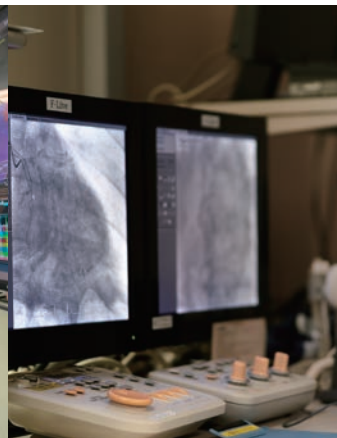
多職種による合同カンファレンスが同院で開かれるようになったのは、2017年から。循環器センターを開設し、多職種によるチーム医療を実践してきた。「以前は内科と外科がある程度、線引きをして治療していましたが、今は両者が得意な分野に積極的に関わり、難しいところは相互に助け合うハイブリッドな形になりました。これによって、治療の安全性と同時に、ベストな治療法を総合的に提案できるようになったと思います。私たちが大切にしていることは、患者さんの将来への視点です。患者さんが退院後もずっと元気に過ごすために何を選択すべきかをいつも第一に考えています」と田中は話す。

## COLUMN

●心臓病の診断に欠かせないのが超音波（エコー）検査だが、これは検査する技師の技術や知識が問われる難しい検査でもある。

●岡崎市民病院では2022年、日本超音波検査学会の精度認定制度において、腹部、心臓、血管、体表の4領域で受審し、すべて「精度認定施設A評価」と評価された。さらに、一般社団法人日本心エコー学会の心臓血管分野の専門検査技師の認定を受けた技師も在籍し、高精度な超音波検査を実施できる体制を整えている。





## 新しい治療法や医療機器の進化。

合同カンファレンスが求められる背景には、治療の選択肢の広がりがある。「たとえば大動脈弁狭窄症に対しては、TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）という新しい治療法があり、当院でも積極的にを行っています。これによって、今まで手術をあきらめていた高齢の方にも大動脈弁膜症を根本的に治す選択肢が生まれました。また、重症心不全などの患者さんに対しては、インペラ（左心室内に留置し、循環を補助する超小型ポンプを内蔵したカテーテル装置）を用いることで、以前より安全に治療できるようになりました。新しい治療法や新しい医療機器の登場により、高齢の方でも安全に手術して、以前と変わらない生活を送っていただくことができるようになったと思います」と、田中は説明する。

しかし、「こうした高度な治療の前に重要なのは、心臓病をいかに早く発見し、悪化

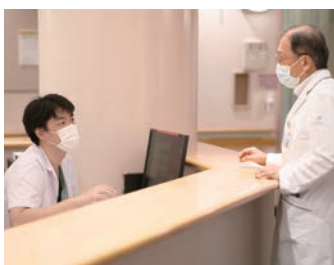
を防ぐかにある。患者の多くは、ある日突然心臓が悪くなるわけではない。もともと糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの生活習慣病を持っていて、それを十分にコントロールできなかったために動脈硬化を発生し、心臓に負担がかかり、冠動脈が詰まったり、破れたりしてしまう。「基本的に心臓病は生活習慣病がベースになっているので、いかに生活習慣病を管理していくかということが大切です。市民の皆さんには健診や人間ドックを定期的に受けて、健康管理を心がけてほしいですね」と田中。聴診や心電図、胸部レントゲンで異常が見つければ、そこを手がかりに心臓病のリスクを早期発見できることも多い。何か異常があれば、かかりつけ医を受診し、より精密な検査が必要であれば、同院で超音波検査や冠動脈CT検査を受けることができる。「これからも地域の先生方と緊密な病診連携を図りながら、生活習慣病の改善と心臓病の予防に力を注いでいきたいと思えます」と、田中はしめくくった。

## BACK STAGE

心臓の症状をあきらめず豊かな生活を送るために。

●社会の高齢化に伴い、心臓病も増えている。息切れや動悸などの不快な症状があっても「年のせい」だと、あきらめてしまう高齢者も多い。

●しかし、現在は医療技術の進歩により、高齢であっても安全に治療できるようになってきた。岡崎市民病院では循環器内科と心臓血管外科がタッグを組み、幅広い選択肢から、患者の年齢や生活を考慮した最適な治療法を提案。市民の健康長寿のために全力を尽くしている。



# 検査を学ぼう

今回のテーマ

超高性能コンピュータを用いた心臓のシミュレーション解析「FFR-CT」

## 超高性能コンピュータを用いた心臓のシミュレーション解析「FFR-CT」とは？

冠動脈内の狭窄した場所の血流状態を、客観的な数値で可視化できます。

■ 全国でも、実施可能な医療機関が限られる心臓検査です。

当院では、新しい心臓の検査であるFFR-CTを、令和4年12月に導入しました。

まず、FFR(冠血流予備量比)とは、心臓の栄養血管である冠動脈内に狭窄があるとき、どのくらい血流が阻害されているかを知るための指標となるものです。そして、FFR-CTは、最新の人工知能を搭載する高性能コンピュータ技術によって、冠動脈CT検査データの解析を行い、狭窄と血流を評価できます。

検査の対象となるのは、症状の安定した患者さんで、冠動脈が狭くなり、心臓に十分な血液を供給できなくなる狭心症の疑いのある方です。

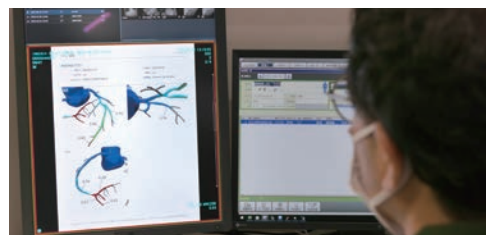
FFR-CTの導入や運用には、施設基準が定められていて、令和5年9月現在、国内で実施している医療機関は、決して多くありません。



■ 追加の心臓カテーテル検査や心筋シンチグラフィが不要。

通常の冠動脈CT検査において狭窄が見つかった場合、狭窄が心臓の働きにどの程度悪い影響を与えているのか、また、症状の原因になっているのかの判断はとて難しく、これまでは心臓カテーテル検査、心筋シンチグラフィ等の検査を、追加で行う必要がありました。それに対して、血流量を解析できるFFR-CTは、冠動脈CTの撮影時の画像を活用し冠動脈の狭窄と血流を同時に評価するため、患者さんへの負担も軽減できます。

また、診断する医師にとっても、心臓カテーテルによる視覚的な判断だけでなく、客観的な数値を得ることが可能。エビデンス(科学的根拠)に基づく診断によって、より最適な治療を実施することができるほか、狭心症の発症予防のため、リスクファクター治療の強化に繋がることもあります。



### Staff's message



医療技術局放射線室  
診療放射線技師  
平 克之  
鈴木貴之

診療放射線技師として、新しい技術を学ぶ、取り入れることに果敢に挑戦。

FFR-CTは、形ではなく血流という、目に見えない心臓の機能的な面を、可視化することができる有為な検査です。対象となる方(※)に関しては、非常に画期的なものであることは間違いありません。FFR-CT導入以来、私たち診療放射線技師は、専門技術職として新しい技術を学ぶ、取り入れることに果敢に挑戦しています。これからも研鑽を重ね、地域

への貢献をめざしていく決意です。

※狭窄の治療でステント(金属のチューブ)がすでに入っている場合など、解析ができない場合もあります。





# 岡崎 の Team

# チーム医療を知ろう

今回のテーマ

不整脈チーム

循環器内科医、臨床工学技士、慢性心不全看護認定看護師が、  
総合力で不整脈治療に取り組んでいます。

薬物、ペースメーカ等のデバイス、  
カテーテルアブレーションによる  
治療があります。

心臓は、筋肉の袋でできた臓器で、筋肉に電気が流れて収縮することで動いています。その電流の異常によって起こるのが、不整脈です。

不整脈には、大別すると、脈が遅くなる徐脈性、脈が速くなる頻脈性、そして、通常の脈より早く心臓が収縮する期外収縮の3種類があります。

代表的な治療として、徐脈性では、電気刺激を伝えて心臓を動かすペースメーカ、頻脈性では、電気ショックを与えて心臓の動きを正常に戻すICD(植え込み型除細動器)による治療が行われています。また、頻脈性では、カテーテルアブレーションもあります。これはカテーテルを用いて異常回路や興奮を発生させる部位を焼灼して消滅させる治療法です。さらに、薬物治療で経過を見るといった選択肢もあります。



医師と各専門職が  
専門性を活かし、  
最適・最善の医療を提供。

診療においては、まず医師が、患者さんが訴える症状が不整脈によるものかの確認から始まります。そのため、24時間もしくは1週間の長時間心電図をはじめ、各種の検査を実施して診断を確定。治療方針・治療法を決定していきます。

そして、治療へと進みますが、今日では医療機器を駆使した治療がメインになっています。その安全確保と有効性維持を担うのが、臨床工学技士。ICDにおけるインターネットを介した24時間管理、ペースメーカやアブレーション治療(手術)時の立ち会いなど、多岐にわたります。

また、治療の要所で、慢性心不全看護認定看護師が患者さんをフォロー。患者さんの様子を観察し、困りごとや不安、悩みを、専門的な視点で支えます。医師、臨床工学技士、慢性心不全看護認定看護師は、一致協力し、患者さんに最適・最善の医療提供に努めます。



## Doctor's message



循環器内科 統括部長  
鈴木徳幸

職種間の情報交換・共有を徹底させ、  
さまざまな不整脈治療に臨んでいます。

不整脈は細かく分類され治療法も変わってきます。今回は代表的なものを紹介しました。

患者さんのなかには、症状が特になくても、診療所での検査や健診で不整脈を指摘されたという方もいらっしゃいます。しかし、症状がなくてもしっかり検査をして、必要があれば治療を行うことが大切です。

私たち循環器内科の不整脈チームは、各

職種が専門性を活かし、専門的視点からリーダーである医師への報告・連絡を欠かさず、情報交換・共有を徹底させ、総合力を持って一人ひとりの患者さんの治療に臨んでいます。もちろん、新たな治療技術にも果敢に挑戦。不整脈については、どんなことでもご相談いただければと思います。



# HOSPITAL NEWS

患者さんやご家族、市民の皆さんを対象とした各種教室・講座を開催しています。

## 糖尿病を学ぶ集い(毎月第3金曜日)

令和5年9月15日の「糖尿病を学ぶ集い」では、「糖尿病の検査」をテーマに、臨床検査技師が糖尿病に関する各種検査のお話をしました。糖尿病について興味のある方はどなたでも参加可能ですのでぜひご活用ください。

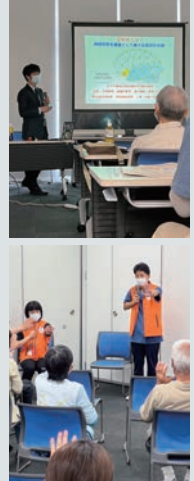
【次回開催予定】10月20日(金)  
薬剤師による糖尿病薬の話

## 腎臓病教室「どうする?腎臓病」

令和5年9月21日の「腎臓病教室」では、腎臓病に関する医師の講話の他、個別の療養相談を実施しました。どなたでも参加可能ですので、参加希望の方は腎臓内科外来までお問い合わせください。

## 認知症市民講座

令和5年9月9日に図書館交流プラザ(りぶら)で、市民講座「認知症を知ろう～認知症の診断と治療・予防『現在と未来』」を開催しました。医師及び診療放射線技師による講演、リハビリスタッフによる認知症予防運動の紹介を行いました。



## 糖尿病療養支援チームが額田北部診療所に多職種によるスタッフの派遣を開始。

当院では、令和5年7月から、糖尿病の専門職が不在である額田北部診療所に対して、専門職の派遣を開始しました。この活動は、へき地医療を支援する目的で、現在は、3か月に1回程度、医師、糖尿病療養指導士の資格を有する看護師、理学療法士を派遣し治療のサポートを行っています。



## 医師の働き方改革ワークショップ in Okazaki 2023 医師、多職種が参加しディスカッション。

令和6年度から開始される「医師に対する時間外労働の上限規制」を見据え、令和5年9月5日、当院で「医師の働き方改革ワークショップ in Okazaki 2023」を開催しました。当日は厚生労働省の藤川 葵氏(医師等医療従事者働き方改革推進室室長補佐)を迎え、医師の働き方改革にはどのような取り組みが必要か、医師のみならず多職種も参加の上ディスカッションしました。



20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で  
当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00～

10月19日(木) 乳房を意識する生活習慣「ブレスト・アウェアネス」始めませんか?  
乳がん看護認定看護師 榊原佳子

11月9日(木) 糖尿病ってどんな病気?  
内分泌・糖尿病内科 部長 滝啓吾

12月21日(木) もう一度確認しよう!感染対策  
感染管理認定看護師 杉浦聖二



エフエム EGAO  
(76.3MHz)



これまでの  
放送内容は  
こちらから!

岡崎市民病院  
公式ホームページ



Instagram



@okazaki.hp

X (旧Twitter)



@okazaki\_hp

YouTube



岡崎市民病院

検索

岡崎市民病院  
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1  
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>

つながる  
Tsu-na-ga-ru

2023 No.15 10月号

発行責任者/院長 小林 靖 発行/岡崎市民病院 広報戦略チーム  
記事提供/中日新聞広告局 編集協力/プロジェクトリンク事務局 発行/2023年10月